

第25期

理工学研究科後期課程

受 験 案 内



令和7年度

入 校

防 衛 大 学 校

## 目 次

理工学研究科後期課程第25期学生選抜試験受験案内	1
理工学研究科後期課程関係教官一覧表	4
理工学研究科後期課程3専攻11教育研究分野の教育研究内容と方針	6
理工学研究科後期課程の概要	9
理工学研究科後期課程の授業科目及び担当教官	11
理工学研究科後期課程第25期研究実績等一覧	14
理工学研究科後期課程第25期課題論文用紙	15
防衛大学校理工学研究科後期課程第25期志願票	16

## 理工学研究科後期課程第25期学生選抜試験受験案内

### 1 受験資格

幹部自衛官（入校日において幹部自衛官となることが予定されている者を含む。）  
又は自衛官以外の隊員で次の各号の一に該当する者

- (1) 防衛大学校理工学研究科前期課程（平成12年度以前にあっては、理工学研究科）  
又は防衛大学校総合安全保障研究科前期課程（平成20年度以前にあっては、総合安全保障研究科）を卒業した者又は入校日までに同課程を卒業見込みの者
- (2) 修士の学位を有する者又は入校日までに取得見込みの者
- (3) その他防衛大学校長が修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者

### 2 出願手続

- (1) 受験希望者は、それぞれの所属に応じて、防衛大臣、防衛大学校長、防衛医科大学校長、防衛研究所長、統合幕僚長、陸上幕僚長、海上幕僚長、航空幕僚長、統合幕僚学校長、情報本部長、防衛監察監、地方防衛局長又は防衛装備庁長官（以下「幕僚長等」という。）あて、次のア～エまでの書類を添えて出願すること。

注： 陸上自衛隊、海上自衛隊及び航空自衛隊以外に所属（勤務）する幹部自衛官が受験を希望する場合は、あらかじめ所属先の人事担当を通じて陸・海・空幕僚監部の各補任課に調整されたい。

ア 防衛大学校理工学研究科後期課程第25期志願票 1通

イ 受験資格を証明する大学院等の成績証明書及び修了証明書（受験資格(1)により出願する者を除く。また、修了証明書の提出は、成績証明書に修了年月日が記載されている場合、不要。） 1通  
なお、受験資格(3)によって出願をする予定の者は、事前に所属先の人事担当者を通じて各幕僚監部補任課等と調整の上、次の(ア)～(オ)までの出願資格審査書類を令和6年4月26日（金）まで（必着）に防衛大学校長（教務部教務課研究科係長気付）あて提出すること。

(ア) 研究業績調書 1通

(イ) 出願資格審査に係る推薦書（大学又は研究所等の推薦書） 1通

(ウ) 最終学歴の成績証明書及び卒業証明書（卒業証明書の提出について、成績証明書に卒業年月日が記載されている場合は不要） 1通

(エ) これまでに行った研究の概要 1通

(オ) 学術論文等の写し 1通

ウ 研究実績等一覧（別紙第1） 1通

エ TOEIC（※）のスコアシートのコピー 1通

注1： ※は、Test of English for International Communicationのこと。

注2： 部隊等でTOEICを受験した場合は、人事担当者の証明をもってスコアシートの代わりとすることができる。

注3： TOEIC公開テストの開催状況により、やむを得ずスコアシート等のコピーを提

出できない者については、他の英語能力試験のスコアシートを提出する等の代替手段を取るので、該当者は速やかに防衛大学校教務課研究科係まで連絡すること。

- (2) 前号の出願書類は、幕僚長等の推薦を受けた者についてのみ防衛大学校長あて一括送付される。
- (3) 防衛大学校で書類を受理した後、6月28日（金）に各受験者あてに課題を提示するので、別紙第2の課題論文用紙を用いて7月23日（火）までに提出すること。提出された課題論文は口述試験の参考資料とする。

### 3 選抜予定人員等

- (1) 選抜予定人員 20名
- (2) 志望専攻等

受験希望者は、次に示す専攻内の教育研究分野（6頁～8頁参照）を選択すること。

専攻	教育研究分野
電子情報工学系	エレクトロニクス工学、情報通信工学、情報知能メディア学
装備・基盤工学系	装備システム工学、装備生産工学、航空飛翔システム、防災工学
物質・基礎科学系	高エネルギー・物質工学、先端機能材料工学、 応用・基礎物理学、地球宇宙科学

### 4 受験者推薦受付期間

令和6年5月27日（月）から同年6月7日（金）まで（期間内の文書発簡日付のもの。）

### 5 試験期日及び場所等

- (1) 試験期日  
令和6年8月7日（水）
- (2) 試験場所  
防衛大学校内
- (3) 試験日程

時間	区分	集合完了時刻	場所
1300～1315	受付		本部庁舎
1330～1730	口述試験	1320	理工学1～4号館 教育研究A館

### 6 試験方法

口述試験：面接方式による質疑応答（課題論文内容も参考とする。）

### 7 試験結果

令和6年11月29日（金）までに幕僚長等に通知する。

## 8 その他

- (1) 出願時の注意事項として、課題論文の課題決定の資とするため、令和6年5月23日（木）までに、研究指導を希望する教官と連絡をとり、研究内容等について相談すること。指導教官について不明な点があれば、防衛大学校教務部教務課研究科係へ問い合わせること。
- (2) 防衛大学校では、受験のための宿泊施設は提供しないので、防衛大学校近隣の各部隊等と調整し宿泊施設を確保すること。
- (3) 受験案内の内容についての詳細は、次に問い合わせること。  
防衛大学校教務部教務課研究科係  
電 話（局線）046（841）3810（内線2086）  
（自動即時通話）8－40－2086
- (4) 防衛大学校においては、試験結果及び合否の問い合わせには応じない。
- (5) 必要がある場合は、別途選抜試験を実施することがあるため、防衛大学校教務部教務課研究科係あて問い合わせること。（令和6年10月29日（火）まで）
- (6) 防衛大学校ホームページ <https://www.mod.go.jp/nda/>  
理 工 学 研 究 科 <https://www.nda.ac.jp/cc/gsse/>

# 理工学研究科後期課程関係教官一覧表

専攻	教育研究分野	教 授	准 教 授	講 師	助 教
電 子 情 報 工 学 系 専 攻	エレクトロニクス工学	博（工）板宮 敬悦 博（工）大越 昌幸 博（工）北嶋 武 博（工）立木 隆 工博 中野 俊樹 博（工）道下 尚文 博（工）森武 洋 博（工）弓削 哲史	博（工）井上 曜		
	情報通信工学	博（工）後藤 啓次 博（工）田中 哲 博（工）西田 謙 博（工）葉玉 寿弥 博（工）和田 篤 博（工）佐山 周次 博（工）辻 健一郎	博（工）亀井 利久 博（工）中村 僚兵 博（工）上原 知幸 博（工）河野 徹 博（理）岡野 真人		
	情報知能メディア学	博（理）知念 直紹 博（理）渡邊宏太郎 博（理）渡辺 文彦 博（理）水川 裕司 博（理）瀬戸 道生 博（工）田中 秀磨 博（理）藤村 雅代	博（工）岩切 宗利 博（工）久保 正男 博（工）佐藤 浩 博（理）信太 正之 博（工）松原 隆 博（情）三村 守 博（工）岩井 啓輔 博（理）佐久間 大	博（工）鶴飼 孝盛	博（工）松木 俊貴 博（理）久木田 真吾 博（工）藤原 匠
装 備 工 学 系 専 攻	装備システム工学	博（工）木原 一 博（工）中村 元 博（工）原田 正範 博（工）八島 真人 Ph.D 山川 淳也 博（工）一柳 隆義 博（工）寺田 大介 博（情報科学）藤原 浩幸 博（工）横井 嘉文	博（工）辻田 哲平 博（工）藪下 和樹 博（工）岡畑 豪 博（工）山田 俊輔 博（工）植山 祐樹 博（工）船見 祐揮	博（工）日比 茂幸 博（工）山脇 輔 博（環境科学）江藤 亮輔	
	装備生産工学	博（工）小笠原 永久 博（工）熊谷 達夫 博（工）吉富 健一郎	博（工）北嶋 孝之 博（工）山田 浩之 博（工）洞出 光洋		
	航空飛翔システム	博（工）井藤 創 博（工）糸賀 紀晶 博（工）越智 徳昌 博（工）樫谷 賢士 博（工）田中 宏明 博（工）山崎 武志 博（工）小幡 茂男 博（工）中山 宣典	博（工）大谷 浄 工博 高野 博行 博（工）溝口 誠 博（工）田口 正人		
防 災 工 学	博（工）藤掛 一典 博（工）別府 万寿博 博（工）宮田 喜壽 博（工）八木 宏 博（工）黒田 一郎 博（工）佐野 博昭 博（工）多田 毅 博（工）篠田 昌弘	博（工）鳴原 良典 博（工）市野 宏嘉 博（工）堀口 俊行 博（工）松崎 裕 博（工）野々山 栄人 博（工）本山 紘希 博（工）宮本 慎太郎			

専攻	教育研究分野	教授	准教授	講師	助教
物質・基礎科学系専攻	高エネルギー・物質工学	博(理) 浅野 敦志 博(理) 石丸 香緒里 博(理) 梅村 泰史 工博 小泉 俊雄 博(工) 甲賀 誠 博(工) 吉村 幸浩 博(工) 山田 弘 医博 山田 雅巳	博(医) 上北 尚正 博(理) 竹清 貴浩 博(工) 伊達 新吾 博(工) 西 宏二 博(医) 平津 圭一郎 博(工) 山本 進一 博(理) 安永 健治 博(工) 天羽 拓 博(理) 山田 篤志		
	先端機能材料工学	博(工) 阿部 洋 博(工) 石井 啓介 博(工) 北沢 信章	博(理) 岸村 浩明 博(工) 田邊 豊和 博(工) 森本 貴明		
	応用・基礎物理学	博(理) 加藤 健一 博(理) 高木 太郎 博(工) 高田 真志 博(工) 多田 茂 博(理) 細道 和夫 博(工) 松元 藤彦	博(工) 明石 治朗 博(工) 川合 伸明 博(工) 齊藤 文一 博(理) 澤井 眞也 博(工) 塚本 哲 博(工) 畑 慶明 博(理) 松村 徹 博(材料科学) 宮内 良広 博(工) 横井 健司		
	地球宇宙科学	博(理) 釜谷 秀幸 理博 小林 文明 博(理) 菅原 広史 博(工) 森 和義 博(理) 岩崎 杉紀	博(理) 板野 稔久 博(理) 渡邊 恭子 博(工) 小笠原 英子		

注：令和6年4月1日以降の情報は理工学研究科ホームページ (<https://www.nda.ac.jp/cc/gsse/>) を参照されたい。

## 理工学研究科後期課程3専攻1 1 教育研究分野の教育研究内容と方針

### 【電子情報工学系専攻】

教育研究分野	教育研究内容及び方針
エレクトロニクス工学	赤外線、ミリ波、磁気を用いた飛翔体および地上・地中物体の検知用デバイス、電子機器を開発するための高機能デバイス、電子機器の信頼性、電子機器のための電気エネルギー発生と変換技術、高出力レーザー機器および物体に及ぼす影響に関する専門的な知識および研究能力を育成することを目的とし、防衛用電子装置の開発において要求される高度な能力を有する人材を育成する。
情報通信工学	安全で高速・高精度の次世代防衛用情報通信システムを開発するために必要な、多量の情報を迅速に伝送するための光エレクトロニクス技術、超高速光伝送技術、通信材料技術、遠隔地に確実に情報を伝達するためのアンテナ技術、マイクロ波・ミリ波回路技術、レーダによる信号処理技術、電磁波の伝搬・散乱現象および環境電磁工学に関する高度な知識および研究能力を有する人材を養成する。
情報知能メディア学	防衛分野における情報の収集、保全、処理および利用に関する事項全般を担当する。特に、暗号を主としたデータ・通信の秘匿と保全、マルチメディア情報の処理、フォールト・トレランス技術やニューラル・ネットワーク等の新しいコンピュータ・アーキテクチャ、ロボットや人工知能に代表される知的情報処理と、それらのマン・ウエポン・システムへの具現としての意思決定支援システムの研究を中心とし、これらの設計、構築、運用に資する高度な知識と研究能力を備えた人材を養成する。



【装備・基盤工学系専攻】

教育研究分野	教育研究内容及び方針
<p>装備システム工学</p>	<p>艦船、車両、知能機械などの装備システムにおいて、その性能を最大限に発揮するには、基本性能、操作性並びに整備性の優れた設計が不可欠である。そのためには、熱・流体力学的性能、エネルギーシステム、強度評価および運動特性とその制御システムなど、システムの性能に関する諸特性の高機能化、高性能化および高信頼化を必要とする。本教育研究分野ではこれらの領域における、先進的理論の修得と開発を目的とした教育研究を行う。</p>
<p>装備生産工学</p>	<p>本教育研究分野は、生産工学的な側面から、防衛装備品の高機能・高精度・高信頼化を目指すもので、構造材料、破壊力学、弾塑性力学、計測工学、設計工学、加工学等を包含し、高強度部材、複合材料等の創製とマクロな強度・信頼性・抗たん性解析、材料の超高速変形と衝撃破壊機構の解明、原子レベルでの変形挙動の究明、超精密加工法と計測・加工システムの開発などに関する教育研究を行う。</p>
<p>航空飛翔システム</p>	<p>航空飛翔技術の成熟に伴い、安全性、環境適合性、ヒューマンファクター等を考慮した最適設計手法の確立が重要課題となっている。本教育研究分野では航空機のロバスト／適応制御を用いた飛行制御系や飛翔体の高機動化アルゴリズム、回転翼航空機の高速度化、固定翼航空機のVTOL化、推進システムの軽量化、高出力化等を重点に、航空機や飛翔体の性能向上、最適設計法に関する教育研究を行う。</p>
<p>防災工学</p>	<p>構造物全般と地盤並びに河川や海岸等で発生する災害に関し、それぞれの発生メカニズムの解明と、より合理的な防災、復旧並びに環境保全技術の開発を目指し、理論的かつ実証的な実験・解析を行い、広い視点に立った教育研究を行う。</p>

【物質・基礎科学系専攻】

教育研究分野	教育研究内容及び方針
高エネルギー・物質工学	火薬、爆薬、燃料など爆発或いは燃焼により高エネルギーを発生する化合物群の製造、爆発・燃焼特性の向上と反応機構の解明、および新しい化合物（物質）の合成（創製）と構造解析、物性測定などを研究目的とする。また、分子生物学的手法を基にした生命体構成成分の物質工学的解明を研究目的とする。これらの研究を通じて高度な学識と研究能力を付与する。
先端機能材料工学	金属、セラミックス、半導体、プラスチック或いはこれらの複合体を素材とした新たな機能や構造をもった先端機能素子と材料の開発、機能発現のメカニズムの解明について研究することを目的とし、これらの研究を通じて、先端機能材料を次世代装備に応用展開するために必要な高度の学識と研究能力を付与する。
応用・基礎物理学	現代科学・技術の発展において、その基盤である物理学は必要不可欠なものである。素粒子から物性・生体にいたる幅広い物理現象の解明を目的とし、これらの研究を通じて、放射性物質による被曝・汚染の評価、衝撃超高压力下における物性の測定といった自衛隊活動に直接必要な高度な科学・技術の習得から、理論物理、極低温物性、固体構造、生体情報、計算物理など幅広い分野の学識とその研究能力の付与まで、新しい科学・技術の萌芽を担える人材の育成に努める。
地球宇宙科学	地球および宇宙における自然現象の解明を主たる研究テーマとする。すなわち、気象学では豪雨、突風、異常な高低温等をもたらすメソスケールやマイクロスケールの現象について研究する。海洋学では海洋の物理学的側面を調べ、固体地球科学では地球内部を地震学的手法等によって解明する。また地球環境の分野では気候変動等について研究し、宇宙科学では太陽や恒星等の活動現象を、観測を通して明らかにする。海洋音響環境工学の分野では海洋音波伝搬、海中物体探知、音響インバージョン法など水中音波物理およびその応用に関する研究を行う。これら気象情報分析、地震災害研究、海洋現象調査、リモートセンシングによる画像分析等を通して、自衛隊の活動に必要な高度の学識と研究能力を付与する。

# 理工学研究科後期課程の概要

## 教育目的及び方針

防衛大学校における理工学研究科は、一般大学の大学院修士課程に相当するものとして、昭和37年4月に開講された。近年の学術研究の進展や急速な技術革新、社会経済の高度化、複雑化、国際化、情報化等の変化に伴い、大学院の重要性は益々増大しつつある。一般大学においては、旧制帝国大学を中心に大学院重点化、とくに博士後期課程の充実を図っている。わが校においても、平成13年度から従来の課程（理工学研究科前期課程）に加えて、一般大学の大学院博士後期課程に相当する理工学研究科後期課程が発足した。

今日のような、極めて高度化・ハイテク化した装備やシステムを持つ自衛隊が、その任務を果たし、国民の負託に応えるためには、これらに対応し得る高度の知識と技術を持つ幹部自衛官及び研究者の育成が、以前にも増して重要である。そのためには、一般大学の大学院博士後期課程に相当するレベルを維持しながら、我が国の防衛にとって重要な研究・技術であるにもかかわらず、国内の大学院ではあまり取り上げられていない分野の教育研究の充実を図る必要がある、ここに本校後期課程の存在意義がある。

理工学研究科後期課程では、これら高度化・ハイテク化していく防衛装備・技術に対応し、これら分野における自立した研究開発能力を有する人材を育成するため、専門的かつ高度な研究能力及びその基礎となる幅広い学識を修得させることを教育目標とする。

## 教育課程及び履修方法

理工学研究科後期課程における教育課程は、大学院設置基準（昭和49年文部省令第28号）の博士課程に準拠した内容であり、3専攻11教育研究分野（6頁～8頁参照）を設けている。その内容は各自衛隊における防衛装備・技術の趨勢を踏まえたもので、更に学術研究や今後の自衛隊のニーズに的確に対応することを目指している。

修業年限は3年であり、卒業には10単位以上を修得し、かつ、卒業論文の審査及び最終試験に合格することが必要である（11頁～13頁参照）。

卒業に必要な10単位のうち4単位は学生が所属する専攻の必修科目を修得することとなっているが、残りの単位に関しては、その他の科目のうちから自由に選択することができ、学際的な分野の勉学・研究もできるようになっている。

本校では以前から各幕からの研修生を受け入れ、東京工業大学、大阪大学、筑波大学等の一般大学大学院に学位論文を提出し、博士の学位を取得するいわゆる論文博士の指導も長年行ってきており、優れた研究業績と指導実績を持つ教官が多数存在する。日常の研究指導、学会発表に対する指導では、前期課程以上に密度の濃い指導が展開される。また、卒業論文を作成するための研究テーマは、前期課程の場合と同様に学生の意向を十分に反映して決定され、大学院博士課程相当にふさわしい、より高度な研究能力の養成に重点を置いた、研究指導が行われる。

なお、卒業要件を満たし、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構が実施する論文審査と試験に合格した者に対して、博士（工学又は理学）の学位が授与される。

## 教 育 環 境

防衛大学校には、学生が勉学・研究に専念できるように、教育目的に沿った施設を整備し、それぞれの教育施設には最新の教育・研究器材を備えている。また、総合情報図書館には約65万冊の専門図書、参考図書、学会誌等を備えている。

## 理工学研究科後期課程の授業科目及び担当教官（予定）

電子情報工学系専攻				
区分	教育研究分野	授業科目	単位	担当教官
必修	専攻共通	電子情報工学論究Ⅰ	2	電子情報工学系専攻関係教官
		電子情報工学論究Ⅱ	2	電子情報工学系専攻関係教官
選択	エレクトロニクス工学	固体物理工学	2	立木教授
		誘電体デバイス特論	2	森武教授
		電子応用計測	2	中野教授
		応用電子回路	2	北嶋教授
		電磁波計測特論	2	道下教授
		エネルギー応用工学特論	2	大越教授
		信頼性工学特論	2	弓削教授
		適応制御特論	2	板宮教授
	情報通信工学	通信材料工学特論	2	西田教授
		フーリエ光学	2	田中(哲)教授、和田教授、岡野准教授【オムニバス方式】
		光ファイバ通信特論	2	辻教授、上原准教授【オムニバス方式】
		レーダ信号処理工学	2	佐山教授
		電磁波工学特論	2	後藤教授、亀井准教授【オムニバス方式】
		高速情報伝送とノイズ	2	中村(僚)准教授
	情報知能メディア学	離散統計学特論	2	情報知能メディア学関係教官
		ハイパフォーマンスコンピューティング	2	情報知能メディア学関係教官
		数理計画法特論	2	情報知能メディア学関係教官
		情報セキュリティ特論	2	岩切准教授、田中教授、三村准教授【複数教官担当方式】
		知能と複雑系	2	佐藤准教授、久保准教授【複数教官担当方式】
		意思決定工学	2	渡邊(宏)教授、佐久間准教授【オムニバス方式】
		解析学特論	2	藤村教授
		位相幾何学特論	2	知念教授
		微分方程式特論	2	渡辺(文)教授
非線形最適化特論		2	信太准教授	
代数学特論		2	水川教授	
関数解析学特論		2	瀬戸教授	

装備・基盤工学系専攻				
区分	教育研究分野	授業科目	単位	担当教官
必修	専攻共通	装備・基盤工学論究Ⅰ	2	装備・基盤工学系専攻関係教官
		装備・基盤工学論究Ⅱ	2	装備・基盤工学系専攻関係教官
選択	装備システム工学	熱エネルギー工学	2	中村教授
		動的システム特論	2	原田教授、辻田准教授 【オムニバス方式】
		路外車両工学特論	2	山川教授
		知能機械制御特論	2	八島教授
		造艦学特論	2	木原教授、寺田教授、戴下准教授、日比講師【オムニバス方式】
		機械振動制御特論	2	藤原教授
		流体動力システム	2	一柳教授
	装備生産工学	超精密加工	2	吉富教授
		ナノマイクロシステム特論	2	洞出准教授
		超精密機械設計	2	北嶋准教授
		構造強度解析特論	2	小笠原教授、山田(浩)准教授 【オムニバス方式】
		機械材料工学特論	2	熊谷教授
	航空飛翔システム	航空飛翔工学Ⅰ	2	糸賀教授、田中(宏)教授 【クラス分け方式】
		航空飛翔工学Ⅱ	2	越智教授、井藤教授、溝口准教授 【クラス分け方式】
		航空飛翔工学Ⅲ	2	山崎教授、高野准教授【クラス分け方式】
		航空飛翔工学Ⅳ	2	樫谷教授、小幡教授、中山教授【クラス分け方式】
	防災工学	防災構造工学特論	2	藤掛教授、本山准教授
		衝撃工学特論	2	別府教授
		信頼性工学特論	2	堀口准教授
		鉄筋コンクリート工学特殊講義	2	黒田教授
建設材料特殊講義		2	市野准教授	
防災システム特論		2	松崎准教授	
沿岸海洋工学特論		2	八木教授	
河川・海岸災害論		2	八木教授、多田教授、嶋原准教授 【オムニバス方式】	
地盤工学特殊講義		2	宮田教授	
地盤防災工学特論		2	篠田教授	
基礎工学特論		2	佐野教授、野々山准教授、宮本准教授 【オムニバス方式】	

## 物質・基礎科学系専攻

区分	教育研究分野	授業科目	単位	担当教官
必修	専攻共通	物質・基礎科学論究Ⅰ	2	物質・基礎科学系専攻関係教官
		物質・基礎科学論究Ⅱ	2	物質・基礎科学系専攻関係教官
選択	高エネルギー・物質工学	火薬学特論	2	甲賀教授、伊達准教授 【クラス分け方式】
		構造化学特論	2	山田(雅)教授、平津准教授、上北准教授、天羽准教授【オムニバス方式】
		高分子科学特論	2	小泉教授、石丸教授、山本准教授 【クラス分け方式】
		物質科学特論	2	梅村教授
		素材化学特論	2	吉村教授、浅野教授、竹清准教授、山田(篤)准教授【オムニバス方式】
		物性・反応化学特論	2	山田(弘)教授、西准教授、安永准教授 【クラス分け方式】
	先端機能材料工学	固体物性特論	2	岡本教授
		先端プロセス学特論	2	北沢教授
		先端環境材料特論	2	田邊准教授
		機能性材料特論	2	阿部教授
		極限環境プロセッシング	2	岸村准教授
		電子機能材料特論	2	石井教授
		先端機能材料工学演習	1	先端機能材料工学関係教官
	応用・基礎物理学	高エネルギー物理学特論	2	松村准教授
		量子場の理論	2	細道教授
		数理科学特論	2	高木教授
		放射線管理学特論	2	高田教授
		計算統計力学	2	応用・基礎物理学関係教官
		強相関物性特論	2	加藤教授
		超伝導物性特論	2	畑准教授
		構造物性特論	2	澤井准教授
		集積機能デバイス特論	2	松元教授
		衝撃超高压科学特論	2	川合准教授
		生体人間情報特論	2	多田教授
	地球宇宙科学	地球宇宙科学特論Ⅰ	2	菅原教授
		地球宇宙科学特論Ⅱ	2	小林教授
		地球宇宙科学特論Ⅲ	2	釜谷教授
地球宇宙科学特論Ⅳ		2	岩崎教授	
振動波動特論		2	森教授	
海洋音響特論		2	小笠原准教授	

## 理工学研究科後期課程第 2 5 期研究実績等一覧

氏名		受験番号	※
----	--	------	---

※欄は記入しないこと。

## 【作成要領】

- 1 この用紙を表紙に用い、MSワード等で A4 判用紙に片面印刷して作成すること。表紙には、出願者の氏名以外何も記さないこと。
- 2 一覧のページ数に制限はない。一覧各ページ（表紙を除く）の下部にはページ番号を記入し、表紙と合せて綴じること。
- 3 ①著書、②刊行した論文等、③学会・学術会議等に提出した論文、④学会・学術会議等での口頭発表、⑤講義・講演等、の順に、小見出しをつけて記載すること。（実際の一覧では①～⑤の番号を用いず、該当事項のない項目については省略する。）
- 4 上の各項目ごとに、最新のものから過去にさかのぼり記載すること
- 5 著書、論文等の書誌情報は、主要学会誌における形式を参考にして、正確に記すこと。刊行した論文等の場合最初と最後のページ番号を、学会・学会等への提出論文の場合には総ページ数を明記すること。共著者等のある場合には、全員の名前と出願者の担当部分を明示すること（明示できない場合は、理由を記すこと）。
- 6 出版予定の著書・論文等については、出版社・编者・学会等からの証明書を別添のこと。



## 理工学研究科後期課程第25期課題論文用紙

氏名			受験番号	※
志望専攻		志望教育研究分野		
課題論文テーマ				

注：1 ※欄は記入しないこと

2 本様式（A4判）を使用し、浄書すること。また、課題内容以外で指示された事項があれば、それに従うこと。なお、参考文献等がある場合は末尾に掲げること。

防衛大学校理工学研究科後期課程第25期志願票

頭文字			受験番号	※	
ふりがな 氏名	(男・女)		階級(級)	発令年月日	
	昭和・平成 年 月 日生 ( 歳 )			・ ・	
勤務先				写真 ・自衛官は制服・脱帽 ・カラー写真 ・写真裏面には氏名を記入のこと ・4 cm×3 cm	
所在地	〒 ( - ) ( 駐屯(基地) )				
	(Tel 8- - )				
課題 通知先	メールアドレス				
志望 専攻	専攻		教育 研究 分野	教育研究分野	
過去の理工学研究科後期課程受験			有 ( 回 ) ・ 無		
修士論文題目					
履 歴	学 歴	大学等	(防大) 本科第 期	学科	
		(一般大学)	大学	学部 科 年 月卒業	
	大学院	(防大研究科)	理工学研究科前期課程第 期	専攻	大講座
		(一般大学院)	大学院	研究科	専攻 年 月修了
自 衛 隊 歴 等	勤 務 先		期 間 ( 年 月 )		
			・ ~ ・		

[注意事項]

- ※欄は記入しないこと。
- 志願票の記入は、自筆のこと。
- 氏名は、幹部名簿又は戸籍抄本と一致させ、省略した字体を使用しないこと。防衛大学校本科卒業時と姓の異なる場合は旧姓を ( ) で記入すること。
- 事務官等の志願者は、「階級(級)」欄の上段に官名を記入すること。
- 自衛隊歴は、自衛官は幹部候補生学校卒業以後を、事務官等は採用時から記入すること。

《受験案内の内容に関する問い合わせ先》

防衛大学校 教務部 教務課 研究科係

住所：〒239-8686 横須賀市走水1-10-20

電話：(局線) 046-841-3810 内線2086

(自動即時通話) 8-40-2086

ホームページ：<https://www.nda.ac.jp/cc/gsse/>